

青葉の詩

あおほのうた
発行責任者
菊陽町立菊陽南小学校
校長 渡邊浩文

六月は心のきずなを深める月間！

私たちの証！みなみっ子集会！

伝えたいこと！分かり合いたいこと！

やっと梅雨らしい(?)どんよりとした空の下、もう六月の最終週となっていました。湿度の高い日は何となく気分も湿りがちなのですが、子どもたちはいたって元気。毎朝の明るい挨拶で、私たちの気分はカラッとします。

さて熊本県では、毎年六月は「心のきずなを深める月間」として、いろんな取組がなされます。

はじめは、はじめが社会問題として大きくクローズアップされてきた頃、「はじめの根絶月間」としてありました。はじめの根絶を目指すことは間違いではないのですが、その迫り方に重きが置かれるようになったのではないのでしょうか。

「心のきずなを深める」とは

いじめ根絶には一人一人が意識を高く持つことも必要です。それ

と同時、いじめを



この六月、本校の特筆すべき取組に「みなみっ子集会」

があります。人権委員会の子どもたちが掲げた集会の目的は、①ふわふわ言葉をふやす。②おたがいの気持ちを分かち合う。③人がいかな気持ちになる行動をなくす。日常の一コマを人権委員さんたちが演じて、この目的をみんな確認することから始めました。

各学年・学級の発表

それぞれのクラスで現在取り組んでいること、心のきずなを深める月間に考えたことを発表してくれました。発表順に私の感じたことを書かせてもらいます。

三年生。もともと書きの学習を通して、自分の心の中のもやもやに向き合っていました。もやもやを晴らすために、伝え合うことの大切さに気づき、さらにそれを受けとめる自分でありたいと思っています。自分をかえたいという言葉が印象的でした。

四年生。みんなが違っていることを認めよう。人それぞれが考えていること、苦しいこと、いろいろなことを話すことで、新たな自分と出会うし、新たな友だちと出会うことになる。新しいクラスを目指す力強い気持ちを感じました。

おひさま学級。ふわふわ言葉でたくさんある。口にすることで、まわりの人を安心させたり、いい気分になる魔法の言葉。でも、自分自身に言い聞かせるふわふわ言葉もあるんですね。「大丈夫、大丈夫」「まあ、いいか」等々。そうだよなあ、とても感じました。

一年生。一人一人が画用紙に描いたいろんな表情を持って登場。ふわふわ言葉は、やさしい顔とやさしい声をプラスすることで、もっともっと素敵なものになっていきます。言葉は口だけで伝えるも

のではなく、心を込めて伝えるものだと改めて教えてもらいました。二年生。教科書で学んだ「たけちゃん、とくちゃんのはなし」本の中のお話が、本の中だけで終わらない。自分のこととして、身のまわりの出来事と重ねていく。生活の中に学びを生かす姿勢が、365歩のマーチの歌にぴったりでした。

五年生。伝えきれないもどかしさ、注意できない心の悩み、高学年としてすっきりできない気持ちを話してくれました。まだまだ足りないところを振り返りつつ、高学年としての自覚と責任、そして勇気が身についてきたことがよくわかりました。

六年生。自分の行動がまわりにどう思われているのか知らないし、同時に不安も感じている。みんなが、安心して、居心地のいいクラ



スをつくりたい。そのためには、挨拶や発表へのお返し、拍手などのリアクションが大切。みんないい雰囲気づくりをして、最高の学年をつくりたい。小学校最後の一年をどう過ごすか、しっかり考え、取り組んでいこうという意気込みが伝わりました。

聞くだけでなくお返し！

みなみっ子集会のもっとすごいところは、それぞれの発表に対して、全校生徒から「お返し」が送られるところです。みんなの思いに直接応えてくれます。やろうとしていることに、応援をしてください。最高の学年をつくりたいとあった六年生へ、みんながエールを送ります。みなみっ子の心のきずなが深まっていくのを感じるのです。

何人もの保護者の皆様も参加いただきました。小学校でこれだけの集会ができることに、私は驚きました。ご覧いただいた皆さんもきっと同じ思いでしょう。これからも、南小のいいところがぐんぐん伸びていきますように。

自転車大会

六月十七日(土)本田技研の体育館で子ども自転車大会が行われました。本校からは、上村鈴央さん、小牧一花さん、高木春花さん、鍋島千穂さん、鍋島美桜さんが出場。連日の早朝からの実技練習、



お昼休みの学科の勉強で臨みましたが、わずかのところで入賞は逃しました。練習を指導いただいた交通指導員の皆さん、応援いただいた交通安全母の会の皆さん。大変お世話になりました。

